



写真上：香野さん(右)をはじめとする「日加交流プロジェクト」に関わる人たち  
写真下：「やどかり印刷」の工場



このカナダのオンタリオ州の活動について職員と精神障害者が共同で学習を重ね、実際にカナダからゲストを招いてセミナーを2000年1月に開催した。これが大きな転機になったと、常務理事の増田一世さんが話す。「企画から実施までたくさんの当事者(精神障害者)の方たちがセミナーに携わってくれました。それまではどこか職員主導という側面がありました。これを機に真の意味での共働をめざそうと強く思うよう

## ファイザープログラム 「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」 2001年度 募集要項

1. 募集期間：2001年7月2日～8月13日
2. 助成金：1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間：2002年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野：特に次のようなプロジェクトを重視します。
  - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
  - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動  
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
  - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先：  
ファイザー製薬株式会社 企業文化室  
03-3344-7524  
応募要項はホームページ  
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます

# 精神障害者の声を反映した 街づくりをめざしてカナダと交流

## 社団法人やどかりの里(埼玉県さいたま市)

「やどかりの里」は、さまざまな活動を通じて精神に障害を持つ人たちの生活を30年にわたって支援してきた。発足当初は数人だった職員も、現在は約50人。さいたま市内に点在する「生活支援センター」を利用する精神障害者はおよそ180人を数える。

理念としてしているのは、職員と精神障害者がパートナーシップを築いたうえでの活動展開。これはコンシューマーのイニシアチブ(当事者「精神障害者」によるイニシアチブ)という考え方がもたれている。この言葉がピュラーであるカナダのオンタリオ州は政策決定への参画をはじめ、精神障害者にとって先進的な環境にある。

「日」の充実である。野宿生活者とはもすると孤立し、ストレスや孤独感からアルコール依存症や鬱病などの心の病に侵されることが多い。それを防ぐには同じ境遇にある仲間たちの顔を見ながら語り、心を癒し、決して自分は一ひとりぼっちでないと意識を肌で感じる事が大切だ。

「今後はさらに多くの仲間が集まれるように『仲間の日』を充実させ、仲間との語りを通して、食を含めての健康管理と病気の早期発見、アルコール依存症対策などについて取り組んでいきたい」と安保さんたちは気持ちを新たにしている。



「精神障害者が住みやすい街づくりを」と話す増田さん

「自身も精神に障害を持つ、理事の香野英勇さんが続ける。『双方がまったく同じ問題意識をもつて同じ目標に向かうようになって、自分たちが何を考え何を学び得るのが大事なのか、わかったように思います』このセミナーで学び得たことをさらに

「精神障害者を含むすべての住民を主体においた政策が行われるような環境の実現には何十年もかかるでしょう。草の根の活動からコンシューマーのイニシアチブの理念を日本でも広めていきたいと考えています。」(増田さん)

に発展させようと取り組んでいるプログラムが、「精神障害者の政策決定画を目指した日加交流」だ。9月に当事者と職員合わせて10人がカナダを訪問し、現地の様子を視察する。コンシューマーや行政の人たちに話を聞き、精神障害者の声を反映した街づくりを実現するためには何が必要なのか学ぶ。そのうえで、自分たちのすべきことと方向性を探っていくつもりだとか。